

ない。

以上の諸点を総合して考えられることは、稜線地帯を発生地としているムラサキリュウキュウツツジの自生品は、標高度の如何は別としてモチツツジとキシツツジの自然交雑により発生したものと推定することの可能性は大きい。その発生も河岸地帯ではキシツツジ型の雑種、中腹地帯ではモチツツジ型の雑種、山稜地帯にはムラサキリュウキュウツツジと一連のつながりを持って発生しているのではないかと予測される。

Summary

I collected a spontaneous *Rhododendron hortense* Nakai on Bizan at Tokushima, Shikoku, in 1945, and subsequently, it has been collected by Mr. Shigeru Takafuji on Ishii-cho Maeyama at Tokushima in 1971. From the investigation of the natural crossing of *Rhododendron ripense* Makino and *Rhododendron macrosepalum* Maxim., it is deduced that the natural crossing of them results the formation of *Rhododendron hortense*.

□日本林業技術協会編 (III は倉田悟著)：原色日本林業樹木図鑑 I—III. A4. 各巻図版 80—100 枚。地球出版株式会社。I. 1964 (7,500 円), II. 1968 (8,500 円), III. 1971 (10,000 円)。この本は上記の協会が計画し東京営林局や林野庁が援助し、編集委員会によって作られたもので、図版製作指導および解説は倉田悟委員が当たったという。日本に野生する有用樹木は 600 種ほどあるというがそのうち木材生産上、森林景観上、林地保全上最も重要と思われるもの 100 余種を選んで最初刊行された。その時は第 1 巻としなかったが要求が多かったとみえて、もれた高木を主として第 2 巻が発行された。そして最近第 3 巻が出たが、これには I, II にもれた高木のほかに小高木や低木を採録してある。大版の原色図は日本理科美術協会その他の第一流植物画家が 10 人以上で分担執筆しただけあって実にみごとなできばえで、印刷もすばらしい。これらの図はほとんどが生品から写生したものであるという。配列は各巻ともエングラール順になっている。解説は図と見開きになって和英両文で書いてあり、各種ごとに日本地図の分布図がついている。今はもうめったに見られなくなった「日本森林樹木図譜」や「北海道森林樹木図譜」に代わるものとして林業や林学の関係者のみでなく、広く植物関係方面、教育方面に役立つことであろう。

この本ではじめて発表された新しい学名を拾うと次のようである。I. カイシジノキ *Fraxinus Spaethiana* form. *nipponica* (Koidz.) Kurata (品種に)。II—ハマグワ *Morus bombycis* form. *maritima* (Koidz.) Kurata (品種に)；バリバリノキ *Litsea acuminata* (Bl.) Kurata (新組合せ)；アオギリ *Firmiana platanifolia* var. *toomentosa* (Thunb.) Kurata (変種に)。III—ケタカネザクラ *Prunus nipponica* form. *pubescens* (Koidz.) Kurata (品種に)；アサカワグミ *Elaeagnus asakawana* Kurata (新種)；ウラゲミツバツツジ *Rhododendron dilatatum* form. *hypopilosum* Kurata (新品種)。(伊藤 洋)